



# “学びの森” = 支援員だより =

第4号



平成27年10月1日発行

支援員の皆様、こんにちは。

夏休み明けの子供たちの様子はいかがだったでしょうか。学校によっては運動会の練習、準備、本番とあわただしかった日々だったと思われます。9月から12月は、子供たちにとって学校での生活が最も長い期間になります。学習を中心に成果をあげたい期間ですので、これまでと同様に「子供たちの学び」に惜しみない支援を期待します。

7月に開催されました「市講師・支援員研修会」で各学校の実情をもとに協議したことを次の三点に集約しました。

- \*学習支援に関すること
- \*生活支援の範囲や内容に関すること
- \*（教科）担任と支援員との関係性に関すること



日常、出会いそうな事例について、紙面をもって研修したいと思います。

「始業のチャイム（時間）と共に着席する」のですがなかなかその行動がとれず、支援員としてつい大声で、席に着くよう言うことになる。たびたび繰り返すと、“うるさい支援員”との印象をもたれる。「席に着かせるための声掛けは先生の役割ではないか？」と悩んでしまう。

支援員さんの「授業を大切にしたい、よい行動を身に付けさせたい。」という情熱が伝わってきます。繰り返し声掛けしていく中で、この情熱が失われてしまうのではなかと心配します。担任の先生もきっとこのことを気にしていることと思います・・・ではどうしたらよいのか？

どちらか一方だけの努力では、望ましい行動は期待できないように思われます。半ば習慣化してしまっている行動の改善は、なぜそうなってしまっているのか？ それでよいのか？ どうしたらよいのか？ 学級の子供たちにどう投げかけていくか？ その過程で「これからこうしていこう。」と学級で共通理解（約束）がなされると思います。このように学級の子供たちとよりよい生活を築いていくのが担任の先生の役割です。

一方、支援員としては「生活上の支援」も役割上担っているわけですから、担任と「約束の共有化」をはかりつつ、「約束ごと」の視点からの支援になると思います。場面に出会ったら「約束が守れたね」「約束は何だったの？」と。担任・支援員共に確認していきます。繰り返し、根気強く、粘り強い支援が必要ではないでしょうか。

※約束ごとが「学校のきまり」になっていることがあります。



編集・発行： “学びの森”

〒410-1102

静岡県裾野市深良435番地  
生涯学習センター2階

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904